



本校の授業改善に向けた視点

教育課程編成上の工夫	指導内容・指導法の工夫	校内における研究・研修の工夫	評価方法の工夫	家庭や地域との連携の工夫	小中一貫教育の視点
<ul style="list-style-type: none"> ◇各教科の学習の中で、自分の考えを互いに交流させることによって、さらに考えを広げ深める力を継続的に育成する。 ◇習熟に応じた指導や補充的な学習・発展的な学習を取り入れ、個に応じた指導の一層の充実を図る。 ◇開校60周年を記念し、地域の特性を生かした取り組みや、SDGsを意識した体験活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇年間指導計画・評価規準を見直し、授業における指導と評価の一体化を図る。 ◇2年生以上では、習熟度別算数指導を実施し、東京ベーシックドリルを活用するなど、個に応じた指導を実践する。 ◇モジュール授業を活用して、国語における基礎的な学習内容の確実な定着を図る。 ◇学力調査の検証を全体で共有し、授業改善プランに基づく指導内容の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇研究主題「互いのよさを認め合い、主体的に行動できる児童の育成～学級活動の指導を通して～」を基に、一人一人の意見を尊重した話し合い活動の充実を図る。 ◇朝時間に「学級の時間」を取り入れ、学級活動の基礎的な活動を充実させる。 ◇教職員による特別活動の事例研修やICT研修、外国語研修を定期的に行い、授業力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇指導と評価の一体化により、PDCAサイクルの充実を図り、授業改善、学習改善につなげる。 ◇各教科では、授業ごとに評価すべき観点を整理し、評価計画に基づき、適切な評価をする。 ◇児童の学習意欲の向上を図るために、自己評価や相互評価を積極的に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇教育活動の様子や児童の変容等を保護者会や学校だより、ホームページ等を通して情報発信する。 ◇地域環境の特徴を踏まえ、公共施設や地域人材を活用した授業づくりの充実を図る。 ◇保護者、地域、学校評議員による外部評価を実施し、教育課程編成へ生かす。 ◇道徳授業地区公開講座も含め、学校公開日を年複数回設定し、保護者や地域に公開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇校区別協議会において、「目指す15歳の姿」を明らかにしたうえで、小学校と中学校の交流と相互理解の充実を図る。 ◇課題改善カリキュラムの検討、作成により、学びの連続性・系統性を追求する。 ◇「小中連携サミット」を開催し、児童会と生徒会の交流を図り、豊かな心の育成に向けて共通して取り組む。

国語	課題分析	授業改善策	評価(◎○△)
1年	<p>【知識・技能】 ○拗音・長音・促音・濁音・半濁音を文字に表すと、字を間違えてしまう児童がいる。 ○文を書くときに、「は」「を」「へ」を「わ」「お」「え」と間違えてしまう児童がいる。</p>	<p>【文字を正しく覚える】 ○学習の中に視写など実際に書く活動を取り入れて、確実に表記を身に付けさせていく。 ○正しく書けるように姿勢から意識させ、書き順や文字の形を指導していく。</p> <p>【文の構成を考える】 ○「は」「を」「へ」から文の構成を考えさせ、書き間違えないように意識させる。</p>	
2年	<p>【知識・技能】 ○助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方、平仮名や片仮名を文章の中で正しく使うことが身につけていない児童に加え、新出漢字が定着しない児童が多く見られる。</p> <p>【思考・判断力・表現】 ○「書くこと」について、経験したことを思い出したり、気持ちを考えることにつまずいてしまう児童が見られる。また、まとまりと順序を考えて、「はじめ」「中」「終わり」の構成で書くことは個人差が大きい。</p>	<p>【言語活動の充実】 ○日常的に、日記やノートの振り返りを書くことで、言葉や文を書くことに慣れさせていく。関心がもてる教材提示をすることで、楽しみながら文章を書けるようにする。新出漢字を習うときには集中できる環境を整え、間違いを繰り返し練習する機会を設ける。</p> <p>【スムーズに学習に向かえる手立て】 ○書く前に友達同士で話し合ったり交流したりする活動を取り入れて、考えを整理させる。それでも思いつかない児童には、友達ののを参考に書けるように指導する。書き方を掲示し、いつも確認しながら書けるようにする。</p>	
3年	<p>【思考・判断・表現】 ○調べて集めた情報を、項目ごとに整理して書くことが難しい。</p> <p>【知識・技能】 ○漢字の書き取りについて、読み方は同じだが異なる文字を書いてしまう。</p>	<p>【集めた情報を整理して書く】 ○調べて集めた情報を、文章に表す過程を丁寧に指導するとともに、具体的な例文を示す。</p> <p>【同音異義語】 ○漢字には音と意味があることを理解させるとともに、音だけでなく意味からも適切な漢字を選んで書けるようにする。</p>	
4年	<p>【思考・判断・表現】 ○物語を読んで、登場人物の気持ちを読み取ることはできるが、自分の考えを筋道を立てて分かりやすく話したり、詳しく文章に表したりする力が不十分な児童が多い。</p> <p>【知識・技能】 ○語彙力が乏しく、漢字の定着も不十分な児童が多い。</p>	<p>【例文の活用】 ○例文をいくつか提示し、文章を書くときや言葉で説明するときに生かすよう指導する。 ○児童の文章や話し方について、よい点や改善すべき点を丁寧に具体的に指導する。</p> <p>【語彙力や表現力の向上】 ○読書を推進する。 ○簡単な文づくりを日常的に行ったり、朝の会などでスピーチをする機会を多くしたりする。</p> <p>【家庭学習の活用】 ○漢字の練習を毎日の宿題にし、小テストで定期的に定着度を確かめる。</p>	
5年	<p>【思考・判断・表現】 ○文章の内容や構造を正確に捉えられず、筆者の主張を読み取ることが難しい児童がいる。また、読み取ったことを踏まえて自分の考えを適切に表現することについて、個人差が大きい。 ○自分の考えを文章に表す際の表現力が乏しい。</p>	<p>【例文や見本文の活用】 ○例文や見本となるような文を提示しながら、文章の構造を丁寧に確認する。</p> <p>【語彙力や表現力の向上】 ○読書の時間を設けたり、新しい言葉での例文づくりの機会を多くとったりして、語彙力や表現力を向上させる。</p>	
6年	<p>【思考・判断・表現】 ○書くことにおいて、事実と感想、意見とを区別して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して書くことが難しい。 ○筋道の通った文章になるよう、文章全体の構成や展開を考えたり、集めた材料を分類したり関連付けたりして伝えたいことを明確にしたりすることに困難を感じる児童が多い。</p>	<p>【文章の要約や自分の考えを書く活動の充実】 ○書く単元の学習だけでなく、年間を通してモジュールの時間等を活用し、文章を要約したり、それを基に自分の考えを記述するなどの学習を取り入れる。 ○色別の付箋を用いて事実と感想、意見とを明確に区別できるようにする。 ○見本を提示してイメージをもたせるとともに、完成した文章を推敲する時間を確保する。</p>	

社会	課題分析	授業改善策	評価(◎○△)
3年	<p>【知識・技能】 ○地図記号や方位などを覚えてはいるが、地図から学校の周りの様子や土地利用の様子、特色などを正しく読み取る力に課題がある。</p> <p>【思考・判断・表現】 ○地図や写真など2つ以上の資料から特色や工夫、様子を考え、選択肢と照らし合わせたり、自分の考えを表現する力に課題がある。 ○単元のまとめで、学習してきたことを振り返ってノートにまとめたり、そこから自分で考えたことを言葉にして表現したりする力の差が大きい。</p>	<p>【資料を読み取るための視点】 ○資料にかかっている情報の読み取り方について、丁寧に確認する時間を設ける。また、覚えたことを使いこなせるようになるために、教科書の資料以外からも読み取る練習を取り入れる。</p> <p>【言語化と交流】 ○自分の考えをノートに書く機会を多く設けるようにする。また、理由も書かせるようにし、根拠を基に考える習慣を身につけさせる。 ○タブレット等を活用して交流の場を増やし、友達の考えのよさに気付くようにさせる。</p>	
4年	<p>【知識・技能】 ○複数の資料(写真や図、グラフ)を関連付けて、必要な情報を読み取り、リーフレットやワークシートにまとめることが難しい。</p> <p>【学びに向かう力】 ○苦手意識をもっている児童が教科書だけを用いて理解することは難しい。</p>	<p>【資料の精選、提示の工夫】 ○児童に読み取らせたい資料を精選し、タブレット等を活用し、提示の仕方を工夫する。</p> <p>【実感を伴う理解】 ○地図帳や教科書に登場することにゆかりのある物などを用いて、興味関心を高める。</p>	
5年	<p>【知識・技能】 ○社会的事象の仕組みや流れが図や表で整理された資料を正しく読み取る力に課題がある。</p> <p>【思考・判断・表現】 ○資料の理解に課題があるので、社会的問題に対する解決策を正確に思考・表現することができない。</p>	<p>【資料活用の機会の充実】 ○課題解決に向けて文章から読み取るだけでなく、図やグラフ、表などの資料からの読み取りに重点を置く学習活動を増やす。</p> <p>【具体的に表現をする活動の充実】 ○資料の読み取りから考えたことを、理由を明らかにしながら表現する機会を多く設けるようにする。タブレット等を活用して友達の考えを見合えるようにし、自分の考えを言語化できるようにする。</p>	
6年	<p>【知識・技能】 ○政治や歴史の学習に、苦手を感じる児童がいる。</p> <p>【思考・判断・表現】 ○社会的事象を関連付けて整理し、表現することが難しい。</p>	<p>【社会的事象の流れとしてとらえる指導】 ○歴史・政治の学習で、聞きなれない語句や用語が出てきた際に、ただの暗記にならないようにする。どういった仕組みで世の中が動いているのか、歴史的な背景など流れをつかめるような指導を充実させる。</p> <p>【図解化での整理・分類】 ○学習したことを図を用いて整理し、物事の関連性を明確にしてまとめさせることで、つながりをおさえられるようにする。</p>	

算数	課題分析	授業改善策	評価(◎ △)
1年	<p>【思考・判断・表現】 ○どちらが長い直接比較ではなく間接的に比較することが困難な児童が多い。</p> <p>【知識・技能】 ○文章問題を読んで加法か減法か判断できず、正しく立式できない児童がいる。</p>	<p>【具体物の操作】 ○ブロック等を用いて具体的操作を繰り返し行い、どのような式が正しいか判断できるようにする。</p> <p>【体験活動の充実】 ○身の回りにあるものを用いて間接比較し、長さを比べる練習を重ねることで長さの概念を明確にする。</p>	
2年	<p>【思考・判断・表現】 ○板書をノートに写したりまとめたりするのに、非常に時間がかかる児童がいる。</p> <p>【知識・技能】 ○長さや水のかさなどの単位の関係を理解するのが難しい。目的に応じた単位で表現することが苦手の児童が多い。 ○時刻と時間の区別がついていない児童が多い。とくに時刻と時刻の間の時間を計算することが苦手の児童が多い。</p>	<p>【体験的な活動を通して学ぶ】 ○実際に測定する活動を充実させる。不十分なところは、家庭学習でも生活と結びつけて考えられるように課題を出す。</p> <p>【知識の日常化】 ○「何分後の時刻は。」「○時までの時間は。」等、普段の学校生活の中でも、時刻や時間を意識できるような声かけを行う。</p> <p>【補助教材の用意】 ○習熟度別のコース毎の実態に合わせ、穴埋め式の補助プリントに書き込ませる等の対応を行う。</p>	
3年	<p>【思考・判断・表現】 ○既習学習を生かして、問題解決の方法を書いたり説明したりすることが難しい。</p> <p>【知識・技能】 ○実感を伴った知識として、量感が結びつかない児童が見られる。 ○九九が不十分な児童が多い。</p>	<p>【問題解決学習型授業の充実】 ○課題に使える既習学習に触れ、自分の考えに結びつくよう提示をしていく。自分の考えの表現を、式・図・表などの算数の言葉で表現できるよう友達の考えで示し、書いたり説明したりする表現力を培う。</p> <p>【体験活動の充実】 ○長さや重さに触れる活動を取り入れる。 ○毎時間授業開始時に計算問題を解き計算の土台を養う。</p>	
4年	<p>【思考・判断・表現】 ○自分の考えに算数の言葉を使い、簡潔に表現できない児童が多い。</p> <p>【知識・技能】 ○わり算の筆算の仕方に戸惑う児童が多い。 ○分度器の扱い方が不十分な児童が多い。</p>	<p>【問題解決型授業の充実】 ○既習学習に触れ、算数の言葉の式、図、表等で表された友達の考えを提示することで、書いたり説明したりする表現力を培う。</p> <p>【計算・量感の基礎の積み上げ】 ○毎時間授業開始時に計算問題を解き、土台を養う。 ○直角より大きい小さいにことある毎に触れ感覚を養う。</p>	
5年	<p>【思考・判断・表現】 ○既習学習を生かして、問題解決のための方法を書いたり説明したりすることが難しい。</p> <p>【知識・技能】 ○図形のいろいろな見方が不十分な児童が見られる。 ○割合の立式、それに伴うわり算の筆算で困難な児童が見られることが多い。</p>	<p>【表現力の向上】 ○既習学習を確認しながら、自分の考えに式、図、表等の表現で表し、友達の考えに提示することで書いたり説明したりする表現力を培う。</p> <p>【思考方法の充実】 ○図形の変形等の提示で見方を広げ楽しむ姿勢を伸ばす。 ○問題解決の手段として、数直線、線分図、Lマス図、表等に触れていく。</p>	
6年	<p>【思考・判断・表現】 ○既習学習を生かして、問題解決のための方法を簡潔に書いたり説明したりすることが難しい。</p> <p>【知識・技能】 ○小数、分数が入った問題の立式が困難な児童が多い。 ○割合問題の立式で困難な児童が多い。</p>	<p>【表現力の向上】 ○既習学習を確認しながら、自分の考えに式、図、表等の表現で表し、友達の考えに提示することで書いたり説明したりする表現力を培う。</p> <p>【思考方法の充実】 ○問題解決のための手段として、数直線、線分図、Lマス図、表等に触れ、立式につながるような自分の手段を見つけ、定着させていく。</p>	

理科	課題分析	授業改善策	評価(◎ ○△)
3年	<p>【思考・判断・表現】 ○実験に対する意欲が高い児童が多いが、結果から分かることを自分の言葉でまとめることは難しい。</p> <p>【知識・技能】 ○動植物を一生懸命に観察カードに描いている児童が多いが、観察から気付いたことを見付けられない児童がいる。</p>	<p>【課題解決の手順】 ○実験において、課題→方法→予想→検証→結果→考察という課題解決の手順でノートにまとめる力を身に付け、見通しをもって臨めるようにする。</p> <p>【観察の視点】 ○観察において、気付きを見付ける視点を伝え、的確な視点で考えを広げている児童の意見を紹介し、学級全体で共有する。</p>	
4年	<p>【思考・判断・表現】 ○事象から多くのことに気付き、疑問をもって学習に取り組むことができる児童は多い。しかし、疑問に対して根拠のある予想や仮説を考えることが苦手であるため、解決の見通しや考察に結び付けることができない。</p>	<p>【問題解決学習の流れ】 ○問題把握→学習課題→仮説(予想)→検証→結果→考察という課題解決の手順を定着させる。</p> <p>【課題解決の活動】 ○事象と今まで学習してきた内容や生活経験と関係付けさせることを通して、予想を立てさせる。個人が立てた予想を小集団で話し合い、比較させることで根拠のある予想や仮説を発想できるよう指導する。</p>	
5年	<p>【思考・判断・表現】 ○実験、観察に対する意欲は高く、記録を丁寧にまとめることができる児童が多い。しかし、結果から考察をし、科学的な根拠をもちいて結論までまとめられる児童が少ない。</p>	<p>【課題解決の活動】 ○問題→予想→計画→検証(実験・観察)→結果→考察という問題解決の流れで学習を行う。その中で、解決するためにどのような検証を行うのか計画を吟味させ、結果に対して、考察をさせていく。</p> <p>【考察のモデル提示】 検証の結果を個人でまとめさせ、その後小集団で話し合わせる。その際、前単元までの学習の中で、手本となる考察を提示し、考察の仕方を身に付けさせ</p>	
6年	<p>【学びに向かう力】 ○既習学習を生かして、問題解決のための方法書いたり説明したりすることが難しい。</p> <p>【知識・技能】 ○実験や観察したことの結果と考察の区別がつかない児童がいる。</p>	<p>【課題把握から考察、まとめの学習の流れ】 ○予想を日常生活から考えて印象付けたり、実験を自分で考えて計画したりできるようにする。</p> <p>【ノート指導の充実】 ○結果と考察の区別をつけるために、実験の説明をした後、結果まで自分で取り組む時間を設定する。その後、結果を全体で共有し、問題を確認してから考察を書くようにする。</p>	

生活	課題分析	授業改善策	評価(◎○△)
1年	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>○「アサガオの観察」や「きせつとなかよし はる なつ」では、成長に対して気付いたことや草花・生き物の様子について言葉で表すことに個人差がある。</p>	<p>【表現の工夫】</p> <p>○国語の「おおきくなった」と関連させながら、観察の観点を確認したり、書き方を確認したりすることにより、言葉で表す語句を増やす。</p> <p>○絵や図を中心にまとめたものから、書いた文章を分かりやすく相手に伝えたり、発表したりする場を設ける。</p>	
2年	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>○感染症対策で、学校探検や町探検が例年通りの形で行えないため、自分自身の成長や地域についての気付き、上級生としての意識、地域について知ろうとする意欲をもちにくい。</p>	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>○町探検で、密にならない工夫をしつつ、地域の方々へのインタビューを取り入れた学習を行う等、地域との交流機会を意図的に設ける。</p> <p>○気付いたことや考えたことを、多様な方法で交流し、振り返る機会を設ける。その際、タブレット等のICT機器を活用し、気付きの質が高まるようにする。</p>	

授業改善推進プラン<音楽>

44練馬区立立野 小学校

音楽	課題分析	授業改善策	評価(◎○△)
1年	<p>【知識・技能】</p> <p>○鍵盤ハーモニカの技術にかなりの個人差がある。</p>	<p>【技術の習得】</p> <p>○リズムや皆で合わせて演奏することの楽しさを経験させる。指導者がオルガンを弾き、音を確認してシミュレーションする。また、指使いなどの基本的なことを注意して指導する。</p>	
2年	<p>【知識・技能】</p> <p>○鍵盤ハーモニカの音の位置が分からない児童が多い。</p> <p>○周りの音やリズムに合わせられない児童が多い。</p>	<p>【技能の習得】</p> <p>○タブレットやデジタル教科書の画面を見ながらシミュレーションをし、音階構造や運指を理解できるようにする。</p> <p>【アンサンブルの習得】</p> <p>○曲に合わせて、打楽器等を用いたリズム活動を常時行い、ハーモニー感・拍子感・リズム感の習得を目指す。</p>	
3年	<p>【知識・技能】</p> <p>○児童のキーボードのテクニックを育てたい。</p> <p>○たたくリズムと音符の連動的理解ができない児童が多い。</p>	<p>【技能の習得】</p> <p>○ミニキーボードを導入し、タブレットに教師の見本画像・動画を載せ、ミレーションし、運指などの技能の習得を目指す。</p> <p>○キーボードテクニック向上のプログラムを開発</p> <p>【リズム・音符の連携】</p> <p>○リズム活動を常時活動化し、タブレット、シンセサイザーと連動し、理解を向上させる。</p>	
4年	<p>【知識・技能】</p> <p>○たたくリズムと音符の連動的理解ができない児童が多い。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつことが課題。</p>	<p>【リズム・音符の連携】</p> <p>○リズム活動を常時活動化し、タブレット、シンセサイザーと連動し、理解を向上させる。</p> <p>【想像する力】</p> <p>・音楽からイメージを広げ、音の仕組みを用いて、音楽を作ることができるようにする。</p>	
5年	<p>【知識・技能】</p> <p>○鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くことが課題。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○発想を生かした表現や、思いや意図に合った表現をすることが課題。</p>	<p>【知識から迫る】</p> <p>○曲想やその変化と音楽の構造との関わりを理解できるような学習計画の工夫する。</p> <p>【技能の習得】</p> <p>○ミニキーボードを導入し、タブレットに教師の見本画像・動画を載せ、ミレーションし、運指などの技能の習得を目指す。</p> <p>【リズム・音符の連携】</p> <p>○リズム活動を常時活動化し、タブレット、シンセサイザーと連動し、理解を向上させる。</p> <p>【曲の特徴を感じ取らせる】</p> <p>○曲の特徴から、思いや意図をもてるような指導を行う。</p>	
6年	<p>【知識・技能】</p> <p>○コロナ感染の影響でリコーダー、鍵盤ハーモニカを使うことができない。</p> <p>○個人の技能習得にばらつきがあり、時間がかかる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○発想を生かした表現や、思いや意図に合った表現をすることが課題。</p>	<p>【技能の習得】</p> <p>○ミニキーボードを導入し、タブレットでシミュレーションさせ、運指などの技能の習得を目指す。</p> <p>○合奏練習時、タブレットに各パートの見本演奏を収録しデータを自ら使い練習の支援とする。</p> <p>【音楽用語の習得】</p> <p>○タブレットで連動し、自分のイメージにあわせて分かりやすい習得を目指す。</p>	

授業改善推進プラン<図画工作>

44練馬区立立野 小学校

図工	課題分析	授業改善策	評価(◎ △)
1年	<p>【思考・判断・表現】 ○発想や表現を広げることが難しく、表現の幅が狭く偏りがちである。</p>	<p>【多様な表現活動】 ○様々な表現方法を体験させ、表現する楽しさを感じさせる。</p> <p>【造形遊び】 ○紙や粘土、木片などを使って行う造形遊びの活動を取り入れ、材料や場所から自分なりのイメージや表現を広げることができるようにする。</p>	
2年	<p>【知識・技能】 ○使用経験が少なく、絵の具や筆、接着剤などの道具の扱い方に不慣れな児童が多い。</p> <p>【思考・判断・表現】 ○作品作りを行う際に、自分の思いをどのように表現したらよいのか悩んだり教師の手本に引っ張られてしまったりする児童がいる。</p>	<p>【個に応じた指導】 ○道具の使用方法や注意点について、実物投影機等を使い、教師が実際に行いながら示す。また、苦手意識が強い児童には、教師と一緒に使ってみながら安心して行えるようにする。</p> <p>【指導方法の工夫】 ○導入部で絵本の読み聞かせや言葉集めを行い、作品のイメージを膨らませやすくする。また、題材に合わせた材料を複数用意し、選択して作品作りを行えるようにする。</p>	
3年	<p>【思考・判断・表現】 ○限られた時間の中で発想し、自分の表したいものを見つけ、表現していく力が弱い。</p> <p>【知識・技能】 ○造形的なよさや面白さ、表したいことについて、発想することはできるが、材料や道具を思いに合わせて使ったり、組み合わせたりすることが難しい。</p>	<p>【振り返りの工夫】 ○授業の終わりに鑑賞の時間を設け、進行状況を確認したり、次時の活動について説明したりすることで、次回への見通しをもたせる。</p> <p>【多様な表現】 ○紙やはさみ、水彩絵の具など既習の材料や道具を使って、新たな発想ができる題材を行う、また基礎基本を映像などで丁寧に振り返り、発展へとつなげていく。</p>	
4年	<p>【思考・判断・表現】 ○自分の表現に自信が持てず、材料や道具を自分なりに工夫して扱い、試行錯誤することに苦手さを感じている。</p>	<p>【指導内容・指導方法の工夫】 ○多様な材料や道具を使用しての作品作りに児童が主体的に取り組める題材を設定する。また、児童がお互いに学び合い認め合うことができるような鑑賞活動を取り入れる。</p>	
5年	<p>【知識・技能】 ○造形的な視点について、自分の感覚や行為を働かせて理解しようとするのを苦手としている。</p> <p>【思考・判断・表現】 ○自分のイメージをさらに深め、試行錯誤しながら、新しい表現を模索する力が弱い。</p>	<p>【既存の学習】 ○学年間の系統性をもたせた授業を行い、前学年での学びを効果的に生かせるような授業を組み立てていく。</p> <p>【造形遊び】 ○材料や空間と関わる活動を取り入れることで新たな発想を促し、表現へと結び付けていく。</p>	
6年	<p>【思考・判断・表現】 ○見通しをもって、最後まで試行錯誤しながら表現していく力が弱い。</p>	<p>【ICTの活用】 ○実態に応じた見取りを丁寧にを行い、子供たちの力に合わせた題材を実践していくことで、制作意欲を高め積極的に活動できるようにする。また、ICTを用いた視覚的に分かりやすい説明を行い、見通しをもって活動できるようにしていく。</p>	

授業改善推進プラン<家庭科>

44練馬区立立野 小学校

家庭	課題分析	授業改善策	評価(◎○△)
5年	<p>【知識・技能】 ○学校での調理実習が制限されている中、調理を家庭でやっている子とそうでない子の差があり、個人差が大きくなりつつある。 ○裁縫においては、様々な縫い方を学習したが、さらなる習熟が必要である。</p> <p>【思考・判断・表現】 ○日常生活から課題を見付けることや、学んだことを日常生活に生かすことが十分でない。</p>	<p>【実践的・体験的な活動の充実】 ○基本を丁寧におさえてから、実習に備えていく。 ○宿題で取り組む機会を設け、家庭と連携しながら経験を増やしていく。 ○体験・実習の機会を増やす。</p> <p>【日常生活との関連付け】 ○家庭生活、学校生活の中で学んだことを生かせる場を意識したり、意図的に設定したりして日常につなげていく。</p>	
6年	<p>【学びに向かう力】 ○興味関心の差から、学習へ取り組み方に違いがみられる。 ○学校で学習したことを、普段の生活で生かそうとする姿勢に違いがみられる。</p> <p>【知識・技能】 ○経験や興味関心の差から、個人差が大きい。</p>	<p>【実践的・体験的な活動の充実】 ○環境づくりや制作等の手順の根拠について考えたり、実践する喜びを味わったりできるように授業を工夫し、生活をよりよくしようとする意欲関心を高める。</p> <p>【日常生活との関連付け】 ○身に付けた知識や技能などを日常生活に生かせるよう、家庭に呼び掛ける。</p>	

体育	課題分析	授業改善策	評価(◎ ○△)
1年	<p>【学びに向かう力】</p> <p>○活動に意欲的な児童が多い一方で、苦手意識が強く、積極的に取り組めない児童がいる。</p> <p>○勝つことにこだわり、ミスをした友達に対して強い口調になったり、乱暴な言動が見られたりする児童がいる。</p>	<p>【運動への意欲付け】</p> <p>○十分な運動量を確保し、多様な動きを取り入れて、基本的な技能や運動意欲を高める。よい動きの児童に手本を示させたりお互いに気付いたことを発表させたりして、よりよい動きを身に付けられるようにする。</p> <p>【言葉掛けの仕方】</p> <p>○相手の立場に立って考えさせたり、協力することの大切さを実感させたりして団結する楽しさを味わわせる。</p>	
2年	<p>【知識・技能】</p> <p>○運動経験が少ないことから、様々な運動遊びにおいて、体の動きがぎこちなかったり苦手意識をもっていたりする児童が目立つ。</p> <p>【学びに向かう力】</p> <p>○運動遊びやゲームの場面において、友達と仲良く行ったり勝敗を受け入れたりすることが難しい児童がいる。</p>	<p>【運動への意欲付け】</p> <p>○十分な運動量を確保し、多様な動きを取り入れて、基本的な技能や運動意欲を高める。よい動きの児童に手本を示させたりお互いに気付いたことを発表させたりして、よりよい動きを身に付けられるようにする。</p> <p>【振り返り場面での価値付け】</p> <p>○友達と声を掛け合ったり相手チームに拍手を送ったりする児童の姿を見逃さず、振り返りの場面で価値付けを行うようにする。</p>	
3年	<p>【知識・技能】</p> <p>○運動経験が少ないことから、知識や技能の習得が不十分な児童がいる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○チームで協力して作戦を考えたり、問題解決のための方法を考えたりする学び方が十分に定着していない児童が多い。</p>	<p>【運動への意欲付け】</p> <p>○十分な運動量を確保し、多様な動きを取り入れて、基本的な技能や運動意欲を高める。友達のよい動きの気付きを発表する機会を作るなどして、児童同士が教え合うことができるようにする。</p> <p>【振り返り場面の活用】</p> <p>○振り返り場面で、作戦が成功したことを取り上げたり、気持ちの良い言葉掛けを発表させたりする。</p>	
4年	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>○技能習得やチーム力向上のための課題解決方法を、適切に選択したり実践したりすることができない児童がいる。</p> <p>○コロナ禍により、グループで話し合う時間を制限しているため、決まった時間の中で自分の考えを的確に伝える力の差が大きくなっている。</p>	<p>【学習過程の一貫性と課題設定の工夫】</p> <p>○毎時間の学習のねらいを明確にし、めあてと振り返りに一貫性をもたせる。学習過程を組む際、児童の実態に合わせて、解決したいと思えるような課題や規則を設定する。</p> <p>【ワークシートの活用】</p> <p>○ワークシートを活用し、短い時間でも対話的な活動ができるようにする。また、作戦タイム等をモジュールの時間に教室で行ってから校庭に出るなどの工夫を行う。</p>	
5年	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>○課題解決に向けた思考力や表現力が十分でない児童がいる。</p> <p>○運動の特性に応じて、体をどのように動かせばよいのか、実際の自分の動きはどうなっているのかを自身で把握できていないため、課題を解決することが難しい児童が多い。</p>	<p>【学習過程の一貫性と方向性の明確化】</p> <p>○毎時間のめあてを明確に示し、振り返りとの一貫性をもたせる。上手く表現できている児童を例に挙げ、どのようなポイントを意識して学習に臨めばいいのか方向性を示す。</p> <p>【協働的な活動とICT機器の活用】</p> <p>○友達同士で見合ったり、教え合ったりする活動を積極的に取り入れる。その際、タブレット端末を活用し、動きを動画に撮ることで自分の体の動きを客観的に捉え、課題解決につなげられるようにする。</p>	
6年	<p>【知識・技能】</p> <p>○体カテストの結果から、男女ともにソフトボール投げの数値が低い。また、全体的に基礎体力の低下も見られる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○学習中に思考したことや学んだことを、振り返りなどで表現することが難しい児童がいる。</p>	<p>【体づくりと運動経験の充実】</p> <p>○準備運動の際に、肩を大きく回すなどの動作を取り入れ、その運動に適した可動域をつくる。また、体づくり運動でボールを使った運動を積極的に取り入れ、経験を増やす。</p> <p>○体育の授業だけでなく、休み時間の外遊びの工夫をすることで、運動量を確保する。</p> <p>【めあての明確化とポイントの焦点化】</p> <p>○毎時間のめあてを明確に示し、目的をもって運動できるようにする。また、振り返りのポイントも予め伝えておき、学びを整理できるようにする。</p>	

授業改善推進プラン〈外国語〉

44練馬区立立野 小学校

外国語	課題分析	授業改善策	評価(◎○△)
5年	<p>【書くこと】 ○大文字や小文字を区別してアルファベットを書いたり、自分の伝えたいことを文法に当てはめて書き表したりするなど、書くことに課題がある児童が多い。</p> <p>【話すこと】 ○積極的にALTと関わったり、英語で相手に伝えたりしようとする意欲に個人差がある。</p>	<p>【授業や家庭学習での定着】 ○授業の中で短い時間でも書く活動を取り入れたり、家庭学習プリントを活用してアルファベットや単語を書く練習をさせたりする。</p> <p>【ALTの効果的な活用】 ○ALTを手本としてリズム良く発音の練習をしたり、友達やALTと関わるゲームを積極的に取り入れたりして、楽しく参加できるような活動を工夫する。</p>	
6年	<p>【話すこと[やり取り]】 ○簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をすることが難しい。</p> <p>【書くこと】 ○身近で簡単な事柄について、簡単な語句を書き写すことが難しい。</p>	<p>【単元をひとまとまりと考えた学習計画】 ○単元を通して何度もやり取りで求められる語句を児童に慣れ親しませるために、授業ごとにいつも単元で使用する語句を聞かせていく。</p> <p>【文字指導の工夫】 ○ワークシートで使用するフォントをUDデザインのものにする。また、よく見て書けるようにするため、文字抜け単語などのクイズを行い、楽しみながら繰り返し書く活動を行う。</p>	